



くまざさ



〈胸像に〉 母校愛の権化 中川久平胸像建立の経緯

湖陵同窓会第一代会長
小原国芳賞受賞者 丹葉 節郎



全国に顕彰像、碑も数ある中に
母校愛の権化・亀鑑として尊称と
共に胸像を贈られた方はわが北海
道立銚路湖陵高等学校（旧銚中を
含む）卒業生で第一期生、湖陵同
窓会第二代会長の中川久平さん位
のものではなからうか。しかも出
身校の正面の職員玄関前に名校長
阿部与作先生胸像の隣りに、公認
建立されている。最高の名誉であ
り、痛快である。一服の清涼剤で
ある。おさなりの母校愛、おつき
合いの母校愛、卒業と同時に母校
よハイさようなバイバイの現世
相に。月刊紙タン（道新発行）に
田畑允氏が「大地に根をはるクマ
ザサ根性」の一文を寄せている。
昭和二十八年三月の道新など各
紙にこんな破天荒な広告があった。
『百万円のきよ金を目標に男子は
飲み代を、女子は口紅化粧代を節
約して協力することを求む』と、



今も母校を想い正面玄関前に立つ胸像

広告主はいわずとした湖陵同
窓会だった。ついで八日には同窓
生大会が開かれた。これは去る二
十二日第一体育館を残して校舎の
大半を焼いて不燃化校舎再建のた
め急ぎよらした運動の一環だった
これらを中心にしたのは中川久
平（一期）丹葉節郎（八期）米内
富久司（十二期）小甲幸一（十三
期）坂下忠勝（十六期）で母校湖
陵のことになると時々家のあるこ
とを忘れるという人たちである。
この人たちは中川さんに大きな影
響を受けた面々である。
（備考、この同窓生大会会長は
丹葉節郎が務めた）
さて、快男子久平さんは昭和二

十年までは大陸で自分の活躍
をしておつたが敗戦によって運命
が百八十度転換、故国日本そして
ふるさと銚路に戻った時は裸一貫
久平さんは祖国愛の炎となり燃え
に燃え、人材育成に全精力を傾け
た。日中は会社づとめ、そして夜
は郷土の前途有為な青少年の薫陶
にと休養もとらず、ために身心は
消耗してしまい遂に病魔に蝕ばま
れ昭和三十八年晩秋には日赤に重
病患者として入院、不眠不休の治
療看護も効なく加速度的に病勢は
悪化してしまつた。久平さんの発
意で意中の方々が病院に向向いた
遠く神々よりは、ふんけいの友、
八代斌助さんも（日本聖公会総裁）
私は十二月十二日朝早く呼び出
され「遺言」の立会者を懇請され奥
様のみ津さんと共に病床に近づい
た。先ず最初に「湖陵」という文

字を見たので私は、中川さん遺言
でしよう、と、そらだご返答。私
は愕然とした。命旦夕に迫る今は
の際に、こんばく湖陵に、私は感
極り、中川さん、そんなにまで湖
陵が、それならあの校庭に、母校
愛の権化中川久平像を皆さんと力
を合わせ建立を。男中川久平また
感動しむせび泣いていた。間もな
く作業は米内さんを会長に片山、
小甲さんを副会長に長内丑右エ門
元老を最高相談役に私は事務局長
で進められた。死期は刻々と近づ
きあんなにも好かれ尊敬された久
平さんは呼咽のうちに永の訣別をし
たのである。女流詩人青田光子作
「死は生である。偲ぶものの心に
生きて甦える」この偉大な人は幾
度も話材の人となり幾度も甦える
であろう。一方、中川久平氏追悼
記「心外無刀」は中川久平伝刊行
会によって作業が進められ銚路新
聞社長であり愛弟子の片山陸三三
さんを委員長に鳥居省三、竹西勇二
米坂ヒテノリ、大道晃仙師の皆さ
ん方によって友情の結晶となつた
に当り、中川久平さんこそは
旧銚路中学校現銚路湖陵高等学校
思いに徹した最高の人であり、湖
陵同窓会の今日を生み育てられた
父親であり母親であると絶賛して
も過言でないと思う。
（五五・六・二八記）

青春譜・湖陵ヶ丘

〈2〉

釧中32期 奥田 達也

「釧中運動会」

空どこまでも青く澄みわたる釧路の秋。阿寒連峰がくつきりと稜線をみせる。人口三万余、戸数七千の釧路の町は、朝からわくわくと落着かない。気の早い者たちはそうそうに湖陵ヶ丘の釧中校庭をめざして集った。

阿部与作第二代校長みずからが教頭時代から鎌や鍬でグラウンドを整備、それを生徒たちも手伝ったとはいえ、まだ周辺には熊笹や葎甘草の生い茂る原野である。ただそこに大正二年九月、伊藤組により落成をみた淡緑色総二階建てコの字型の広大な校舎と屋内運動場、寄宿舎が、どっしりした威容をみせていた。大正四年六月に始まった釧路中学校運動会。海霧の難を避けて秋にかわった年一回の大会は、当時の釧路町民にとって、明治四十四年から行なうようになった町内小学三校連合運動会、町官民連合運動会と共に、楽しみにする年中行事である。町民がこぞ集った。

一学年一学級五十名、五年生までの全校生徒でも二百余十名しかない。校長以下職員、生徒、町の有志がみな役をかってでて運営される。校医の万沢晋医学博士などは審判長兼衛生係長として、看護婦に花を飾らせ、一番はりきり係室におさまっている。サーベルをきっちり締めたベル

「不平あらば我と一騎打」 怒鳴る審判長に感激の校長

のうちりレーは最終走者となって双方同時にゴールイン。さあ、どっちとも誰にも判断がつかない。が、そこは万沢審判長、決断よくさつと橋南に軍配を上げた。ところがおさまらないのは橋北組。なにしろ万沢病院は橋南にある。えこひいきではないまでも独断だと騒ぎ出した。その不平不満の訴えが校長にまで及んだ。校長の目にしてから、どっちが勝ったともわからない。殆ど同時到着だったのだから、橋北組の言いついにもうなずかざるを得ない。

トにさげて、緊張した面持の上級生が肩をいからせ巡回して歩く。その得意満面、誇らしさは選ばれた若者の青春そのものであった。スパイクなどをはじめ、運動用具は揃っていない。ただ跳びに跳び、馳けりに馳けるだけ。判定は勿論、審判員の目だけである。競技は学年別にも行なわれるが、町民の意識には地域的なものがあり、やはり熱狂するのは釧路川を境にした橋南と橋北の対抗である。継走する選手が抜きつ抜かれたつする。熱狂する生徒、観衆の声援

真つ青になって万沢審判長に、どうしたらいい、と馳け寄った利那聞く耳もたぬとばかりに万沢は、そばの高机へ飛び上り、こぶしを振りあげて大声で怒鳴った。「何のための審判長だ。規定により審判長の宣言は一定不動であるもし不平あらば我に向って一騎打せよ」

と、真面目な阿部校長が、顔に嬉し涙をかくそうともせず、そばにかけよって万沢の手を力一杯固く固くにぎりしめたのであった。それを見つめる先生、来賓、その場に居あわせた観衆も思わず感激をあらたにし、涙を流し感情をおさえきれない。それは町民一致しての念願の開校がここまで結実した。ようやく我々待望の釧中精神が育ったと感得したときであったかもしれない。釧中運動会の呼びものは、また同じ万沢の発案による競技余興でもあった。質実剛健の校風から柔剣道が盛んなのにあわせ、剣道の上手四十七人ずつを選び出し、紅白の装いにかけて、山鹿流の太鼓の音よろしく、両側の幔幕より繰り出す。それが両軍あいまみえるや、当るを幸い、めん、どう、こつと打ちあい、突きあい、はては組み合い、足をかけては組み伏せ戦国時代もかくやと思わせる乱闘乱戦を演じた。見物する先生、生徒、観衆にはこれが本場の闘いだ、と叫喚、讚美の声援を送ってやまない。大戦景気に釧路経済も活況を呈した当時、努力・精力・実力主義の校風を作ろうと黙々従事した新理想主義教育にもえる阿部校長の精神、姿そのものであった。(続)

市議会議員 千 葉 千代人 (昭12・3卒) 釧路市春日町二四	市議会議員 羽 田 行 雄 (昭13・3卒) 釧路市新橋大通九ノ一五	市議会議員 三 国 達 郎 (昭18・3卒) 釧路市春採四の二〇ノ九	市議会議員 小 柏 佐 市 (昭18・3卒) 釧路市新富士一三ノ八	市議会議員 中 村 隆 (昭19・3卒) 釧路市浪花町七一〇
--	---	---	--	---



わが青春に悔あり

鰐淵 俊之
市議員

「湖陵に長し四十年」と蛩声をはりあげていた頃は、今から二十八年前のことです。当時、学校の周辺はまだ市街化されてなく、春採湖も自然の状態でありました。入学の喜びに胸を躍らせ通学した校舎は釧路の名残りがありません。クラシックな木造校舎で、辞書の字もなかなか判読に苦しむほどです。暗い校内でした。入学時の写真を見ると、学生がほとんど長靴を履いており、恐らく融雪期で、長靴でなければ通学できないほど道路が悪かったことを物語っており、隔世の感があります。高校時代は、最も春秋に富んだ青春期で未知に対する挑戦、学業そしてクラブ活動、スポーツと、何でも興味を持ち、活発な高校時代を過ごしました。然し、楽しかった筈の青春時代も、突然訪れた不幸、父の死去により、まず進学希望が絶れてしまいました。一家の支柱を失った家庭を、何とか支えていかなければならないと考え、就職試験を受けて無事パスし、少し明るさを取り戻したのも束の間、私自身が健康を害し、病床に伏すことになったのです。将来の夢も絶れて、まさに私にとって灰色の青春時代を余儀なくされました。

望郷……くしろ

声楽家 ステファノ・木内

私の釧路のイメージは、海霧である。

だから、今、遠くにいて故郷の空、海、山、街などを思い浮かべるとき、それは幻想の霧の中にもぼんやり浮んで見える。

一夏のひるとよる。あの不吉な霧笛の重い音と共に黙々と押し寄せる冷たい微生物の大軍。

幼い頃の、物感する頃の私の体を包み、心の中にまで入り込んで心の病気を誘発した。それは耐えがたいまでに重い、鉛のような憂鬱だった……。

釧路についての私のイメージがこのように暗いものであるからといって、私は別に悔やんだりはない。むしろこの人生の経験をもったことを誇らしく思う。私は釧路の波荒い浜辺に種まかれ、芽を出し育ったはまなすである。

東京の夏は、太陽が照り、空は青い。しかし、それも南国の太陽程強烈ではない。しめっぽく、中途半端で詩情が湧かない。

釧路は、私の芸術と詩心を育ててくれた地味豊かな大地であると断言する。

東京の子供達は、幸か不幸か、冬の厳しいしげれる寒さも、夏の海霧の日の憂鬱も知らない。まして、その夏が過ぎて、秋となる時真っ青な空に映えるナナカマドの

紅さも知らない。

自然の厳しさを知らないのは、その苦しき体験をしたものにも言わしむれば、知らない方が幸福かもしれないが、やたら人生経験の上から考えれば何かものたりない。自然の厳しさの中から湧き出て来る春のロマンも知らないからだ。ところで、釧路には私が幼い頃に接したあの懐かしい自然が残っているだろうか。

例えば海……。年に一度海を見ないと苛々して来る程、私の精神に染った釧路の海。少年頃泳いだ海あんの頃、夏になると、友達が大量勢、大町のわが家に集まり、材木の切れはしを両手一杯に抱きかかえて海に向ったものだ。そして浜辺で火をたき、近くのいも畑から盗んで来た五所いもを砂の中に埋め、海の中に飛び込んだ。そして紫色の体をぶる震わせながらたい火にあたり、ほかほかに焼けたいも皮をむいて食べたもの。そのうまかったこと……。

考えてみると、そんな光景は、最近釧路に帰って来ても見当たらないし、話もきかない。

よいプールが出来たせいかもしれない。有りがたいことだが、しかし、何かしら淋しい。故郷を捨てた者のわがまま勝手な感傷か？

市議会議員

本間 正直
(昭19・10卒)

釧路市材木町一三ノ三

市議会議員

清水 闊
(昭23・3卒)

釧路市駒場町四ノ三

市議会議員

日向 郁雄
(昭26・3卒)

釧路市春採七ノ四ノ三

市議会議員

藤巻 直樹
(昭27・3卒)

釧路市鳥取大通三ノ二三ノ三

市議会議員

張江 梯治
(昭28・3卒)

釧路市鶴ヶ岱三ノ四ノ二

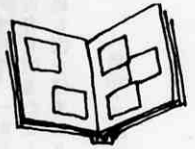
総会当番期紹介

同期会会旗と写真集で語る

湖中28期 本間 正直

昭和二十年三月、終戦五ヶ月前に釧中最終の五年生卒として早くも三十五年、この意義ある年に同期会会旗と、七十頁にわたるアルバム誕生をみた。

そして、八月十日の湖陵同窓会総会の年長当番幹事も仰せ付かった。この五十五年と言う年は、われわれ二十八期生にとっては忘れられない年になりそうだ。顧りみると、昭和十五年、憧れの「くまざさ」の校章と二本の白線の入った帽子をかぶり、晴れて校門をくぐってから四十年、青雲の志を抱き、学業に、スポーツに軍事教練にその青春をぶっつけあった日々今も新たに蘇ってくる。学業なかばに戦場に散った者、飛行場造り、援農、そして軍需工場へと勤労学生として働かされた思い出、修学旅行や学園祭など楽しい思い出は何一つなく卒業したわれわれ。灰色の青春しかなかった二十八期生だったが、毎年二月



八日には同期会をひらいている。インキの香りも真新しいこのアルバムを見る時、六葉の「くまざさ」懐かしく作って本当によかったと思う二十八期生である。

(28期会長)

八期同期会発定

湖陵8期

神 釜躬

卒業後、二十三年間、一度も同期会を開催した事のない我々湖陵八期生にとって、今年度の同窓会総会当番を、任せられると言う事は、非常事態とも言うべき出来事である。

特に私は、この総会当番期に当るという事で、同窓会副会長の大任を申しつけられており(最も、同期のわるい奴に押しつけられたのが、事実であるが...)その責任を感じほとほと困りはててしまった。そこで結局、何名かの同期生に呼びかけ、同期会の結成を急いだ次第である。

名簿すらない我々は、所在の判明している者に、電話連絡をとり、急拠、同期会発起人会を招集した

訳であるが、集まったのは、何と九人という心細さ、それぞれの持ち寄った情報により、第一回同期会の開催に向け、スタートを切った。

事務局を設置し、先ず名簿の作成からとりかかる事になった様次第で、総会を間近にして、何とも頼りない事である。

しかし、少数ながら熱心な協力のお蔭で、どうやら我々湖陵八期会は、発足の足がかりを得、今年一回の会合を持つ事を決め、これを契機にますます団結と友情を深め、又同期会の発展に寄与する事が出来る事を確信している。

これも、総会当番のお蔭と感謝するべきか?何はともあれ今年度の同窓会総会に際し、我々八期生は一団となってこれに当り、成功裡に終る事を、切に希望するものである。

(同窓会副会長)

われら戦後つ子 只今絶好調

湖陵18期

田中 章夫

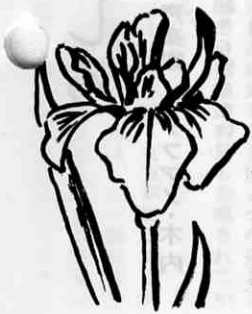
湖陵の学舎を単立って15年、フ口野球の江夏、堀内等と同世代であり同じように体力のおとろえを

感じる年代となってきました。私たちは今年度の同窓会総会の幹事という事で湖中28期、湖陵8期の先輩の方々と打ち合せを行っていますが、与えられた責務を全うできるか不安のあるところですが多方面で活躍の同窓生の人脈をフルに利用させていただくつもりです。卒業以来同期の集りもあまりなく、総会前になって活動、接触の不足を悔んでおりますが、諸先輩のもとで湖陵健児存在を内外に示すべく実りある集いにさせたいとおもいます。我々戦後つ子はようやく一人歩きできる年代になりましたが、湖中湖陵の先輩の活躍は偉大で公私共に指導をいただいております。後輩諸君、もっと先輩と接触をもち絆を強くし、大いに「利用」しましょう。

追記

我々も32才になりましたが、草野球チームでレギュラーでがんばっているのも大ぜいいます。期別に挑戦をうけますのでいつでもどうぞ、賞品は用意します。

(同窓会会計)



市議会議員

山口 功 (昭33・3卒)

釧路市昭町四ノ二九

市議会議員

綿貫 健輔 (昭40・3卒)

釧路市米町一ノ三四

美しく、確実な印刷で躍進をつづける

藤田印刷株式会社

代表取締役社長 嵐田 平二
代表取締役副社長 矢野 幹雄(湖陵3期)
専務取締役 猪瀬 弘人(湖中23期)

釧路市若草町3番地1 ☎代22-4165

釧中・湖陵四〇〇〇名の会員に

釧路市教職員湖陵会の巻

この会は、釧路中学校・釧路高等学校・釧路湖陵高等学校（定時制を含む）の出身者で、市内各学校並びに教育関係に在職中の教職員をもつて組織され、会員相互の親睦と修養を図り、母校の後援にあたる。というのが会則にみられる組織であり目的で、会員数は三〇〇〇名をこえ、毎月一〇〇〇円の一般会費と特別会費年間四〇〇〇円、年間一人一六〇〇円の会費によって会を維持し運営しています。一般会費の半分は、会の目的にためし、湖陵同窓会（私達はこれを親会と呼んでいます）に納入し、もう二十年以上もこれ続けるに至りました。金額的には？百万円位になるでしょうか。従って会費の残り半分で運営が続いているわけで、年一回の会報発行の他、総会費、通信費、会議費と、実際はなかなかの財政苦ですが、頑張っています。特別会費は会員・家族の祝意・弔意、見舞、定年退職者への敬意に支出しています。

会の発足をたずねて

会報「教職員湖陵会」の創刊号（昭和四十九年四月）の名倉副会長（現緑中学校長）の文によれば、昭和二十四年、鈴木徳一先生（元景中学校長）はじめ下重先生（元旭小校長）青山先生（元北中学校長、現埼玉在住）等が中心となり湖陵会が発足した。当時の釧路市教育界は、札幌・函館・旭川の三師範の学園意識が強く、教育振興に大きな障害をなくする対策として湖陵出身の教職員が大同団結して、新教育の振興を期そうとの呼びかけで産声をあげた。その後、単なる会員相互の親睦から発展し、母校湖陵の後援をも目的としようとの声が強くなり、準備委員長に故山田正（元寿小校長）先生が選出され、会としての形が整ったのが昭和三十年で、現在のような規約が出来「教職員湖陵会」と正式の発足をみたのが昭和三十三年二月であり、鉄道集会所今の道警あたりにあったに約百数十名が参集し創立総会を行ったとのこと。当時、私は北教組の市支部長であり、下重

先生を中心に湖陵出身の教師達によって起された派閥解消運動に賛成し、執行部の湖陵出身者も協力して湖陵会結成の実が結ばれた（二十周年記念誌・鈴木先生文）また、「教職員組合も出来た。しかし、これも日教組の指令に追従しているかのように見え、私達は、日本の教育を考えると、先ず郷土の教育を確立することこそ大切であり、祖国愛は郷土愛の上に立つて造られるもの（中略）今は亡き中川久平教育委員長さんも「俺は市長に頼まれたので、俺がいる限り教育委員長は俺がやる。先生方の湖陵会も皆持味を充分発揮しろ」と激励のことはをいただいた（同誌下重先生文）は、会の創立状況と意欲を伝えます。

創立三十六年目の今

会としては特別な事業のないのも特徴の一つかも知れませんが、現在までは母校の創立五十・六十周年記念事業への協賛がありました。内部の事としては、創立十五・二十周年と記念祝賀会を行い、功労者への感謝の意を表わし、三〇頁ほどですが、各々、十五・二十周年の記念誌を発行しました。現在は、同窓会報「くまささ」の発刊にともない、組村同窓会長の要請もあり、軌道にのるまで会報の編集発行の仕事させていた

く、になりました。

トヨタカラー釧路株式会社

取締役社長 高橋 修二

釧路市堀川町6番14号
(自) 釧路市春採4丁目2番33号
(釧中27期)

釧路日産自動車株式会社

取締役社長 小船井 武次郎

釧路市鳥取大通9丁目2番
(自) 釧路市弥生2丁目11番27号
(釧中21期)

在京釧路会の近況

— 釧中湖陵卒業生60% —

釧中の巻(上)

幹事長 佐川 和美

在京釧路会は、ことし創立十七周年を迎える。顧みれば第一回在京釧路会が開催されたのは昭和三十九年十一月である。この会の母体となったのは、当時、会の名称こそ存続していたが有名無実であった在京釧中会と、当時も今も活発な活動をしている在京釧高女会であった。

在京釧路会発足の動機となったのは、当時釧路市公民館長をされていた八回生丹葉節郎さんが、たまたま文部大臣賞受賞で上京された折、有志を集め、在京釧路会発足を促したのが、そもそもの発端である。

会の現有勢力は約一千六百名、この内訳は釧中湖陵卒業生六十%、釧高女江南卒業生三十%、その他十%である。この数字が示すように年々盛会の一途を辿る在京釧路会の屋台骨は何んといつても湖陵

大策さんの物故より一年早く一昨年暮れ不帰の人となられた。

戦後、代議士として道東の発展に尽力された伊藤郷一さんは三回生、神奈川県の大和市で静かに読書に明け暮れる毎日で郷土の発展を念じつつ余生を送っていた。四回生では、小坂孟さん、元大日本印刷の専務として活躍されていた八十歳近い高齢とは思えないお元気さで毎月の北海道倶楽部の例会に顔をみせている。七回生では、釧路市の初代教育委員長をされた浜野幸四郎さんが田無市に、大東文化大学で教鞭をとる成田勝太郎さんが東村山市に、また釧中時代陸上競技で名を売った大村兼次郎さんが宇都宮市に、同じく柔道で鳴らした加藤晃さんが世田谷区に夫々お元気で暮らしている。この七回生四人は、去る六月釧路に赴き懐しい在釧の同期生と集い、あわせて本行寺で同期生物故者の冥福を祈ってきた。

健児(老?)ということになろう以下、本紙編集子の要望に応え得るかどうか、東京で活躍する湖陵同窓生の動向を卒業年次順に紹介してみたい。ただ紙面に制限があり、限られた人のみしか紹介できないのが残念である。従って、ここに名前の出ない方々も首都圏で立派に活躍されていることを申し添えたい。



釧中一回生がご健在である。長い間、山形大学の教授をされて現在は横浜市に在住の神奈川大学教授の佐々木一雄さん。もう一人、長野市にお住いの弁護士で伊藤法律事務所長をされている伊藤英夫さん。一回生は昨年まで三名おられたが、明治薬科大学の副理事長の要職にあった尾崎実さんは、弟である釧路市政功労者の張江

一雄さんは杉並区に。国鉄の幹部から転じて日本交通技術(株)社長の鈴木信孝さんは大磯にそれぞれお住いだ。静岡県医師会副会長をされている川真田茂さんは三島市に病院を経営、現役で聴診器を持っている。この九回生は、毎年一堂に会し、恩師の菊地正人先生を囲み旧交を暖めていたが、昨年菊地先生の逝去に会い悲嘆にくれている。

九回生も多い。釧中時代、剣道が強く、教師に蛮勇を奮い校内で物議を醸したこともある横山巖さんは銀座風月堂社長。在京釧路会会長を創立以来つとめてきた。東芝系のメデイカルシステムコンサルタント(株)社長の今井春蔵さんは太田区に居住。特許印刷の常務という激職で頑張っている飯田

十三回生で、在京釧路会副会長の波岡正治さんは、三ツ輪航空サービス(株)取締役東京支店長のかたから、北海道倶楽部の理事な

太平洋炭礦株式会社
 代表取締役社長 藤森 正男
 本社 東京都千代田区霞が関3丁目8番(虎の門三井ビル)
釧路礦業所
 常務取締役所長 新野 英一
 取締役次長 矢野 鉄男
 釧路市興津5丁目2番23号 ☎46-3111

太平洋興発
 代表取締役社長 藤森 正男
 本社 東京都千代田区霞が関3丁目8番(虎の門三井ビル)
釧路支店
 支店長 前田 和昭
 釧路市春採7丁目10番15号 ☎46-1450



伝統受け継ぐ 全道的進学校

「釧中」といわれる旧制釧路中学の流れを受け継ぐ伝統ある学校である。普通科九学級（定員四百五十人）理数科一学級（同四十人）で進学率は理数科一〇〇%、全校的にみても九五%と高率で、一般的には「進学校」といわれている。旧制釧路中は大正元年（一九一二年）認可で釧路管内では最も古い戦後の学制改革で高校になり、二十五年に現在の校名になったが校訓は「誠・愛・勇」で、昭和二年に作られたものがそのまま使われている。「クマザサのように粘り強く」の精神がいまだに生き続けている。受験校といわれる学校はともすれば、ひ弱な生徒が多いのだが、スポーツなどのクラブ活動も活発だ。ハンドボールは男女とも全国大会に、バスケットも強い全校生徒の六割はどこかのクラブに入っている。学習の方針は「勉強もクラブ活動も一生懸命に」。理数科の場合、レベルは全道五指に入るといわれ、中学生のあこがれのマト。なお定時制は普通科三学級（定数百二十人）

同窓会館建設小委員会

魅力あるものにと話し合う

第一回 同窓会館建設小委員会（委員長 久本 甫）は七月十四日午後六時から商工会館三階小ホールで委員一〇名出席のうえ、開かれた。

会館は同窓会で建築して道に寄附をすることになるが、同窓生がいつでも気軽に利用できる魅力あるものでなければならぬと云った会館の性格、目的等について熱心な討論があり、当日は結論を見な



- いまま散会した。尚、小委員会のメンバーは次のとおり。
- 委員長 久本 甫(湖七)
- 副委員長 徳田 瑛子(湖五)
- 委員 米内富久司(釧一二)
- 浪岡 義雄(釧二二)
- 黒坂 博(釧二八)
- 池ヶ谷栄一(釧三〇)
- 多胡省三(湖一)
- 滝沢 泰雄(湖四)

副会長の 職務分担明確に

組村真平会長を軸に行動する同窓会を目指す昨年度からスタートした新執行部は副会長の職務分担を明確化し名前だけでなく実際にそれぞれの分野で活動する体制をしいている。

- 担当職務は次のとおり。
- 長内 宏 会長代行
- 田村 佳男 会 報
- 久本 甫 会館建設
- 徳田 瑛子 会館建設
- 神 峯 躬 総会対策



編集後記

暦の上では、もう秋が立ちました。本年は夏の暑さを飛び越し、冷たい日々を迎えております。

会員の皆様には、如何お過ごしでしょうか。毎年のことながら、同窓の皆様と逢いできる「タナバタ」でございませう。私共も、同窓会のこの日に合わせ、第2号の発刊を考え鋭意努力して参り、本日お届けすることが出来、慶びとさせていただきます。

尚「くまささ」第3号は、来年の二月を発刊の予定としております。

組村会長又は左記の編集委員にどうぞご投稿ください。期別グループでの会合や集会の記事は大歓迎でお待ちしています。

この機関紙が、先輩と後輩、同期と同期をつなぐ、同窓会唯一の心のよりどころとなるように、次号も編集してまいります。

- 編集委員長 田村 佳男
- 編集委員 遠藤 隆吉
- 八幡 弥平
- 上岡 信明
- 徳田 広
- 中村 忠太
- 金井 勇司